かけはし通信

新紺屋小学校
〒400-0016
甲府市武田一丁目 3-34
Tel:252-2578
発行　中込ひかり

本校の全国学力学習状況調査の結果をお知らせします

今年度は、４月１８日（火）に全国学力学習状況調査が行われました。この調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題、生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善に役立てることを目的としています。本年度の結果について、県や市の教育委員会による指導をもとに分析を行いました。その結果の概要をお知らせいたします。なお、調査に参加した６年生一人一人には、個別懇談などを利用して、個人票をもとに説明していく予定です。よろしくお願いいたします。

＜調査内容＞

○教科に関する調査　「国語」「算数」
○生活習慣や意識などに関する調査　「児童質問紙調査」

＜分析結果の概要＞

１本校の状況

教科に関する調査の平均正答率でみた本校の結果は、「国語」「算数」において、全国や県より優位が認められた。しかし、いずれの教科においても、正答率が６０％に満たない問題が見られたので、分析を行い今後の指導に生かしていく。

２教科に関わる課題とその改善に向けての取組

【国語】

①本校の課題

問題別正答率を見ると、できる問題とできない問題に大きな差が見られた。正答率が６０％を大きく切ったのは「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題であった。また、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえる」問題においては６０％を若干切った。

②改善に向けての取組

○「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」について

・図表やグラフを用いるのは、示すべきことが、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりした方が分かりやすい場合である。観察や実験、調査の結果

などを記述する際には、図表やグラフを用いることで、自分の考えを深めたり、相手にとってよく理解できるものにしたりすることを意識させ指導する。また、図表やグラフを用いてまとめる学習活動に取り組ませる。

・様々な情報の中から原因と結果の関係を見いだし、結び付けてとらえさせる。

○「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」について

・複数の資料から分かったことを基に、自分の考えをまとめるためには、どの資料から何が分かったのか、それに対する自分の考えはどうなのか、整理してから書くことに取り組ませる。また、国語のみならず様々な学習活動の中で、取り入れていく。

○「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえる」について

・話を聞く活動は、どの教科でも日常的に行われているが、聞く立場であるときに、相手の話をより深く理解しようとする意欲をもたせる。話を聴き終わったときに「分かったことは何か。分からないことは何か。さらに聞きたいことは何か。」を、整理し記録することを継続的に行っていく。

【算数】

①本校の課題

算数においても、できる問題とできない問題に大きな差が見られた。

正答率が６０％を大きく切ったのは「正三角形の意味や性質について理解しているか」「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるか」をみる問題であった。

また、「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるか」「二次元の表から、条件に合う数を読みとることができるか」をみる問題においては６０％を若干切った。

②改善に向けての取組

○「正三角形の意味や性質について理解しているか」について

・正三角形の角は全て 60 度であることなど、基本的な図形の意味や性質について、確実に理解できるように反復学習をするとともに、テープを折ったり、紙を切ったりして図形を作成するといった作業を取り入れて、実感を伴った学力を付けていくことが必要である。

○「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるか」について

・二つの三角形の面積が等しいことは分かっているが、正しく説明できない児童が多い。高さが等しく底辺も等しいという条件をしっかり言語化できるようにする。また、三角形の面積についての理解が十分でない児童もいるので、反復学習に取り組む。

○「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量

の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるか」について

・比例における数量の変化の特徴について知識として定着させるとともに、日常的な学習の中で複数の数量の関係を式や言葉で表す活動を取り入れる。

○「二次元の表から、条件に合う数を読みとることができるか」について

・二次元の表を読み取ったり作成したりする力をつけるために、算数の授業だけではなく、他教科の学習の中でも二次元の表を読み取る活動を取り入れていく。

3 児童質問紙調査の結果について

○生活習慣について

「毎日、朝食を食べているか。」「毎日、同じくらいの時刻に起きているか。寝ているか。」という問いに対して、95 %の児童が当てはまる、またはどちらかというと当てはまる、と肯定的に答えている。これは、全国及び県を上回っており、良好な家庭環境の中で生活できている児童が多いと言える。

○自己肯定感・思いやり・受容について

「自分には良いところがある」と肯定的に答えた児童は 90 %となっており、自己肯定感は高いと言える。また、ほとんどの児童が「いじめは、どんな理由があってもいけない」「人の役にたつ人間になりたい」「学校に行くのが楽しみ」と答えており、優しく前向きな気持ちで生活していることが読み取れる。

課題としては、「将来の夢を持っている」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」で、肯定的な答えが全国及び県と比べると若干低かったことが挙げられる。

○自主学習・家庭学習について

「家で自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童は 60 パーセント、「学校の授業以外に、普段（月曜日～金曜日）1 日当たりどれくらいの時間勉強しますか」では、個人差が大きかった。

○授業改善について

「授業で学んだことを、他の学習で生かしている」と答えた児童が 90 %、「総合的な学習の時間で、自分の課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と答えた児童が 80 %であり、児童が主体的に学習に取り組んでいることが読み取れる。

課題点は、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した」「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と答えた児童が 50 %の結果となったことである。

○学級活動について

「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と答えた児童が 95 %となっており、自治的な学級づくりがされていることが読み取れる。

○国語の授業について

「国語の授業がすき」70％、「国語の勉強は大切だと思う」100％、国語の授業の内容よよく分かる」100％、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時の役にたつと思う」95％という結果であり、国語の授業に対しては肯定的な回答となっている。

「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている」と答えた児童は 65％であり、自分と違う考えを受け入れ、自分の考えと比較して、そこから考えを深めることに課題がある。

○算数の授業について

「算数の授業は好き」と答えた児童は 55％で、国語に比べると低い割合となった。しかし、「算数の勉強は大切だと思う」80％、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」95％となっており、算数は好きではないが、その必要性については理解していることが読みとれる。

○英語の授業について

「英語の勉強は好き」90％、「英語の勉強は大切だと思う」95％となっており、英語の授業については好意的な回答であった。

「英語の授業以外で英語を使う機会があった」と答えた児童は 40％となっており、学習したことを生かす機会が少ないことが課題である。

以上、本年度の本校の「全国学力・学習状況調査」の概要についてお知らせをさせていただきました。

児童の学力定着は、6学年のみのものではなく、1学年からの積み上げです。今後も、児童の学力向上に向け、また望ましい生活習慣づくりに向け、教職員一同、努力していきたいと思います。

ご家庭や地域の皆様にもご協力いただくことがありますが、どうぞよろしくお願いいたします。